

## ゴールは遙か先

趣味でバドミントンの社会人チームに所属している。

家族でバドミントン競技を行い、平成 20 年から 4 年間バドミントン部顧問をしたことからバドミントンと関わっている。

その関係で年に数回試合に出る。(成績は良くない。)

小学生の頃からバドミントンをしていた選手達が、社会人になってもバドミントンが続けている方が多くいて、試合会場で見かけることが多い。

小さな頃から強い選手は、社会人になってもやはり強い。

しかし、学生時代著名な成績を出していなかった選手達で、社会人になっても地道に続け、よい成績を残している選手がいる。やはりバドミントンが好きなんだな・・・、続けることは大切なんだなと実感し、彼ら彼女らのがんばりを見るとうれしくなってくる。

実は、このようなことは、スポーツ以外の場面でも出くわすことがある。

自分の生い立ちの中の思い出や学校から巣立った生徒達の中でも類似したことがある。

勉強ができて、著名な学校を卒業し、有名な会社や役所に就職する者、又、その反対のキャリアを歩むが、地道にがんばり、よい仕事をする者もいる。

実際にあることだが、前者のキャリアにより、全国いや世界で活躍しているが、リストラや倒産などで苦しむ友人がいる一方、地元の大きくはないががんばっている企業に就職し、会社や地域のリーダーとなり活躍している友人もいるのである。

今、答えの無い又は複数の答えがあり最適解を見いださなければならぬ社会へ対応できる資質・能力を育成するための教育が学校を中心に行われている。

高校卒業時には、有名で入学が難しい学校へ進学できた生徒達が脚光を浴びているが、そうでない生徒達も多く存在していることも確かだ。特に、挫折感や劣等感を持って次のステップへ進んだ生徒もいるだろう。

ところが、人生 80 年生きるとしたら、その後の時間は相当長い。様々なドラマが起こり得る。

生徒達は夢を持ちがんばり続けることが大切だ。今、思っていた目標にはたどり着けなくても、諦めずにチャレンジすることが大切である。ゴールは遙か先である。

また、我々教師も、今の生徒の実態だけでなく、彼ら彼女らの将来に想いを巡らしながら育てることが大切であろう。とは言いながら、なかなか難しいと思うが、我々大人は生徒以上に長期的な視野に立ち、ゴールは遙か先であることを肝に銘じて指導、付き合いをしていく必要があると強く思っている。